舞鶴市議会
福祉健康委員会
活動報告

- 兵庫県川西市における取組の調査
- 神奈川県鎌倉市における取組の調査

福祉健康委員会調査視察　実施日：令和8年5月12日・13日

視察の目的

本市では、人口減少等により４つの公的病院の経営が悪化しており、持続可能な医療提供体制の構築が喫緊の課題となっている。今後は、抜本的な再編に向けた検討を進め、市民が安心して医療を受けられるまちを目指すことから、先進的な病院再編や経営強化プラン、医療連携の構築に取り組んでおられる川西市の事例を調査することとした。

また、本市では、高齢化等によりケアラーの負担が増加しているが、人材確保のみでは解決が困難である。今後は、ケアラーの生活負担を軽減し、誰もが安心して暮らせる環境づくりを目指す必要があることから、ケアラー支援条例を制定し、地域全体で孤立を防ぐ体制構築に取り組んでおられる鎌倉市の事例を調査することとした。

［福祉健康委員会の令和８年の重点事項］

(1) 将来にわたり安心して医療・介護が受けられる体制づくりに関する調査・研究

(2)　高齢者や障害のある人とその家族が安心して生活することができる環境づくりに関する調査・研究

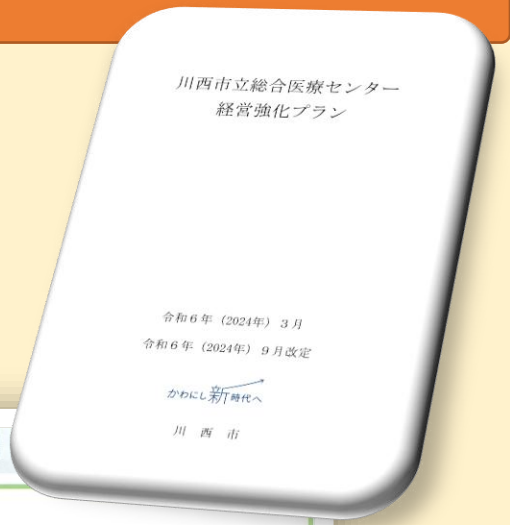
舞鶴市議会のホームページに視察報告書を掲載していますので、ご覧ください。

視察先及び日程

日	程	視察先	調査事項
令和8年5月12日（水）	午前10時～12時	兵庫県川西市	病院機能の再編と地域医療体制の構築について
令和8年5月13日（木）	午前9時30分～11時30分	神奈川県鎌倉市	家族介護者等への支援及びケアラー支援条例の推進について

福祉健康委員会調査視察　実施日：令和8年5月12日・13日

【兵庫県川西市】調査事項：病院機能の再編と地域医療体制の構築について

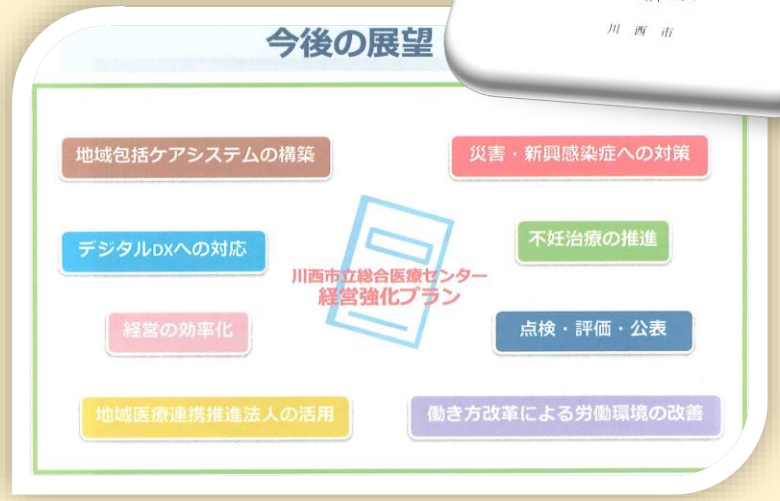


≪川西市の取組の概要≫

◇　川西市では、市立川西病院が「赤字経営の常態化」「施設の老朽化」「医師の大幅な減員」という課題を抱え、公立病院単独での経営維持が困難な状況にありました。そこで、持続可能な医療提供体制の構築を目指し、民間病院との統合による「川西市立総合医療センター」への再編が行われました。

◇　整備手法としては、指定管理者制度の導入やデザインビルド（DB）方式による整備、病床の全室個室化など、経営手法や施設運営を刷新し、救急医療や小児・周産期医療といった政策医療の維持・強化を実現されています。

◇　開院後、経営面において黒字化を達成し、高い病床稼働率と救急応需率を確保するなど、地域における基幹病院として市内完結型の医療体制強化を確立されています。





≪委員の所感≫

○　医療機関同士が連携し、市民の安心・安全のために整備検討を重ねた努力の結晶である。

○　経営母体が異なる二病院の統合を赤字運営という厳しい状況下で、住民の理解を得ながら粘り強く進めた姿勢は学ぶべき点が多い。雇用面においても、職員や組合と丁寧な交渉を重ねた姿勢に感銘を受けた。

○　課題を正確に抽出し、目標達成へ向けて実行する役割の重要性を改めて認識した。

福祉健康委員会調査視察　実施日：令和8年5月12日・13日

【神奈川県鎌倉市】調査事項：家族介護者等への支援及びケアラー支援条例の推進について

≪鎌倉市の取組の概要≫

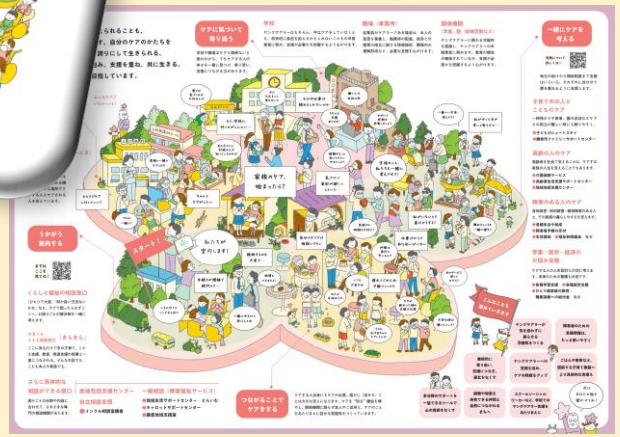
◇　鎌倉市では、ケアラーが孤立することなく安心して自分らしく暮らせる社会の実現を目指し、令和６年４月に「鎌倉市ケアラー支援条例」が施行されました。

◇　条例施行後は、ケアラー支援を地域福祉計画に位置付けるとともに、庁内関係課による連携体制を構築し、重層的支援体制整備事業等と連動させた推進が図られています。

◇　相談窓口の整備やアウトリーチ活動の実施、ピアサポートへの補助、啓発パンフレット作成など、心理的ハードルを下げる工夫がされています。

◇　「ケアラー本人の人生や生活も尊重されるべきである」という視点を重視し、「ケアする人も、ケアされる人も孤立させない」という理念のもと、行政のみならず、地域全体でケアラーを支える環境づくりが進められています。







≪委員の所感≫

○　福祉と学校教育を連携させ、多角的にケアラーを捉える体制は先進的である。特にヤングケアラーコーディネーターの配置など、孤立防止に向けた細やかな配慮がなされており、多機関が連携した支援体制には学ぶべき点が多い。

○　法的根拠となる条例整備に加え、啓発パンフレットなどの広報戦略を組み合わせ、市民が「これもケアである」と気づける導線づくりが優れており、理念条例で終わらせない実効性のある内容を目指された点が非常に印象的であった。